令和４年度 第３回練馬区放課後子ども総合プラン運営委員会　会議要録

１　日時　　令和５年３月２３日（木）午後６時３０分～午後７時５０分
２　場所　　本庁舎１２階　教育委員会室
３　議事および意見・質疑ならびに回答要旨
⑴ 議事「放課後の事業における子どもの意見反映について」の事例報告
□　練馬区事例報告（児童館・学童クラブおよびねりっこクラブ）
（児童館）
・子どもスタッフ活用事業
児童館全体の運営への意見や、イベントの計画段階からの意見など、子どもたちが直接関与し、子どもたちの意見を反映させながら運営をしている。
・中高生カフェ
気軽なおしゃべりをしながらの相談に応じたり、クッキング事業や館内活動への意見提案を受けたりしている。
（学童クラブおよびねりっこクラブ）
・子どもスタッフ会議の実施や目安箱の設置
会議を実施して子どもたちでルールを決めたり、子どもの自由意見を事業運営に活用したりしている。

□　委員事例報告
（民間学童）
目安箱設置中。新しい本やおもちゃ、誕生日イベントの希望の聞き取りに主に使用しているが、苦手なものをやりたくない、という意見も入る。
（民間学童）
行事ごとに、子どもたちが自分たちで考えて運営する手法をとっている。目安箱の設置については検討したい。
（学校応援団）
ねりっこ化により校庭・体育館の開放事業のみなので、開放に来る子どもの数が少なく、意見の聞き取りは難しい。遊具が増えれば子どもも増えるかもしれないが、開放指導員との兼ね合いもある。
（学校応援団）
学童クラブ・ひろばの子と校庭開放の子が双方の遊具を使いたいときは、一緒にやったり貸し借りしたりできるようにしている。子どもからの導入希望がある遊具は、ねりっこの運営責任者と相談して同じ遊具がバッティングしないように調整して購入している。
（青少年委員）
イベントの都度子どもの声を拾ったり、青少年委員の中にいるひろば等のスタッフ経由で子どもの意見を聞いたりしているが、自分で声を上げられない子については難しい。地域清掃イベントの際はその会議もあるので、イベント中においては子ども

の意見を聞くことはできている。
（民生委員）
数年前の児童館では、中高生が主体的にどんどん動いていた。小学生にも動ける子はいるが、時間潰しにきているような子も多く、上の学年の子どもの方が主体的に見受けられた。
（学童保護者）
親ができない昔遊びなどを学童で体験させてもらい有難い。多岐にわたる立場の大人が子育てに関わっていることを知り、感謝している。
（ＰＴＡ）
安全マップの作成・配布から活動を広げスタンプラリーイベントとして実施した。地域の歴史や自然に興味を持ってもらえるイベントにすることで、いずれジュニアリーダーや地域活動に参加するようになるきっかけになれば良い。イベントは子どもが声を出しやすくなると実感している。

「なかなか意見の言えない子の声について」
□　委員事例報告・意見要旨・質疑要旨
（民間学童）
保護者から興味を持ちそうなものを聞き取る。声をかけて心を開いてくれるように寄り添う。自信になることに繋げるように働きかける。日が当たるようにしていく。
（学校応援団）
授業や宿題の何がわからないのかなど、子どもの代わりに声を届けるため、担任の先生にどんどん話しかけるようにしている。
（学童保護者）
子どもの声を拾う方向と逆に行っているのではないか。大規模化したことにより、特定の子に時間を割かれてしまっているのではないか。区には現場職員が困らないように保護者への説明や、小規模化の環境整備をお願いしたい。この会議で挙がった話を、各学童クラブへはどのようにフィードバックしているのか。
（学校応援団）
この運営委員会も大人を通したものなので、子どもが実際にどう思っているのか、子どもの感覚は大人と違うこともあるので、当事者である子どもが参加できる場を設ける、というのはどうだろうか。

□　練馬区事例報告・回答要旨
区の職員として、現場での保育経験を活かし、子どもの声を拾う具体的な方法論や、この運営委員会で挙がった話を、研修等の職員が集まる機会に伝えている。良いアイディアを実践している施設の具体例を他施設に紹介するなど、横の繋がりとして伝えている。
子どもたち本人が発言できる機会は、時間設定等課題はたくさんあるが、検討材料にしたい。

⑵ 報告

・令和４年度利用者アンケート集計結果について説明

・第２期　練馬区子ども・子育て支援事業計画 中間見直し（案）について説明

４　議事以外の意見・質疑ならびに回答要旨

⑴ 「宿題について」

□　委員意見要旨

学童は宿題を見てもらえて、ひろばでは見てもらえないことがあるのは不公平では。

□　練馬区回答要旨

学童もひろばも宿題に取り組む時間として環境を整えはするが、職員が宿題を教えて、学習能力を高めるという機能は制度的にない。学校からも宿題については学校と違う教え方が入ることはかえって学校教育の妨げになることもあると言われている。

□　委員状況報告

（ひろば）

ひろばにきたら、宿題を済ませてから遊ぶ流れが子どもたちの中にできている。

わからない子どもには、教えるのではなく、わかる子どもに解き方を教えてもらえるように、橋渡しをしている。

（民間学童）

保護者は、学童で宿題を済ませてきてほしいという意見が多い。家での保護者とのコミュニケーションは宿題ではなく違うツールで取ってほしいので、学生バイト等が宿題を教えている。

子どもの中には、せっかく友だちといるなら宿題ではなく一緒に遊びたいという声がある。一斉に宿題をする時間を設けているが、学童として何が正しいのか、子どもからの本音に葛藤する部分がある。

⑵ 「議事録について」

□ 委員意見要旨

議事録は、個人が特定される場合を除いて記録版を委員に渡し、それを公開すべきではないか。意識して発言した部分が削られているような気がする。ニュアンスや区にお願いしたいことが届かないような気がしてもったいない。

□ 練馬区回答要旨

区の方針として会議のルールが定められており、発言すべてではなく、要録を作成してそれを記録とすることと示されている。よって、ホームページ等には要録を公開している。

⑶ 「小規模学童クラブの希望、職員の待遇について」

□ 委員意見要旨

ア 小規模だった時期にできていた活動ができなくなっている。90人規模で遊ぶ日が年に何回かあるのはいいが、日々の活動は40人程度で第一、第二とわけて別の学童クラブとしてほしい。
区の施策として、学童クラブや保育園の職員待遇をよくしてもらいたい。

イ 大人数なりのメリットがある。行き届かないイメージがあるかもしれないが、子どもたちのコミュニティーができる。大人数を動かすノウハウは必要だが、職員の関わり方次第でいろいろ吸い上げることができる。

⑷ 「東大泉地区区民館学童クラブ閉室と大泉小ねりっこ学童クラブ待機児童について」

□ 委員質疑要旨

東大泉地区区民館学童クラブの閉室説明会で、利用児童の今後の見通しについて区からは、大泉小ねりっこ学童クラブにて待機児童が出ずにカバーできる見通し、と回答があったが、今年度数名待機児童が出たことについて説明を希望する。

□ 練馬区回答要旨

・東大泉地区区民館学童クラブ閉室と大泉小ねりっこ学童クラブ開室の経緯

地区区民館自体の大規模改修工事の予定があった（コロナの影響で１年延期)。
改修中は学童クラブ運営ができなくなるので、利用児童の居場所探しに奔走したが見つからず、大泉小の校庭に学童クラブを建設することを容認してもらった。
校庭で運動会ができる広さを残し、鉄棒や砂場等遊具をすべて移設して、できるだけ広く、定員120名の学童クラブ棟を建てた。
学童クラブ運営には経費がかかる。施設数を増やせばいいという選択は、経費面からも簡単に選択できるものではない。
学童クラブの需要が増えている中で、受け皿を増やさなくてはならないためねりっこクラブ化を進めている。ねりっこクラブはすべて小学校内に設置しているものであり、安全に過ごせる小学校内に居場所を作ってほしいと望む保護者が非常に多い。

・待機児童について

見込み時に待機児童が出ないと推計したが、最近推計を上回る申請がある。ここ６年で1700名程度の受け皿を増やした。少子化と言われているが、練馬区は地域にもよるがむしろ子どもの数が増えており、学童クラブを利用する児童の割合もどんどん増えている。

・東大泉地区区民館改修後の施設利用について

子ども以外にも高齢者等地域の方々としての用途がさまざまあるため、推計として足りる学童クラブを用意したのであれば、改修後の地区区民館内に学童クラブは残さず、別の用途で使用するというのが区全体の判断である。